

シンポジウム 7：家族全体を「見る」在宅医療

演題名	訪問看護師による家族ケアの実際
-----	-----------------

概要

訪問看護ステーションは、地域で在宅療養支援診療所とともに 24 時間 365 日を支えており、あすか山訪問看護ステーションでも多くの 0 歳から 100 歳までのかたに訪問看護を行っている。

昨今訪問看護ステーションはますます、在宅医療の中で重要な役割を求められ地域のすべての年齢、疾患、障害の対象に対して、在宅療養支援を看護の視点で医療と介護のネットワークづくりも含めて支援している。

訪問看護で重要なケアである家族看護は日々の患者の QOL (生活の質) の向上に欠かせない。

患者とともにその家で長い人生をおくってこられた家族は、疾患や障害に苦しむ患者を一番近い位置から見つめ支援されていると同時に、患者の揺れにともに自身も揺れながら生活を送っている。

家族も患者同様、身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな苦痛を抱えていることがある。様々な家族とかかわる中で、家族が大切にしている価値観を理解し寄り添いの看護の結果築いた信頼関係は自分自身の心を震わせるほどの感動を経験することもある。

例えば、外来化学療法中のがん患者の家族は、一見元気そうに見える患者の理解が困難で戸惑いを感じている事例、幼いわが子が重い障害を負ってしまったことの親としての責任と介護疲労と一生懸命戦っているお母さん、在宅で最期を看取る中で幼い子供との思い出づくりなど患者への看護と同時に家族の笑顔が引き出されるような看護を行っている。

看護本来の役割である患者、家族の生命力を最大限引き出し、QOL の向上を行う上で、家族看護は在宅療養継続には重要な役割を担っている。

在宅医療チーム全体の中で訪問看護師が行っている家族看護を知っていただき、チーム全体で共有することで、治療や支援がより質の高いものになることを希望する。